

体験村・たのはた

# 『番屋エコツアーリズム』



# 番屋エコツーリズムの紹介

(平成23年10月26日資料)

## 体験村・たのはた の紹介

- ・震災前の取り組み P3 ~ P9
- ・震災の状況 P10 ~ P11

## 三陸(田野畑)におけるエコツーリズム

- ・エコツーリズムの立ち上げと取り組み P12 ~ P18
- ・これまでの実績と成果 P19 ~ P20

## 震災後の取り組み

- ・復興への第一歩、新たなツーリズムの可能性 P21 ~ P23
- ・三陸エコツーリズムの効果と期待 P24 ~ P25

## 三陸復興国立公園への期待

- ・環境省、新「三陸復興国立公園(仮称)」への期待 P26

## 北山崎の景観と展望台の観光客



北山崎は(財)日本交通公社が行った観光資源評価の海岸の部において、唯一「特A級」にランクされ、その景勝を楽しむため訪れる観光客は多い。



# 「体験村・たのはた」番屋エコツアーリズムプログラム

北山崎ネイチャー  
トレッキング



サッパ船  
アドベンチャーズ



貝殻や石のネイチャー  
クラフト



机浜番屋群ガイド



番屋料理



20種類のメニュー  
教育旅行は60種類

## 番屋エコツーリズムとは

### 【コンセプト】

北山崎など美しく豊かな自然と文化、そして住民の営みに直接触れることにより、いつしかその風景にとけこんでいる旅のスタイル

### 【特徴】

インストラクター（ガイド・指導者）は田野畑に生まれ育った人間(住民)であり。彼らの今の生き様(いきざま)そのものが良質なツーリズム素材である。

インストラクターと旅人の交流により、その日その時その瞬間の出来事を五感で共有する。互いに学び互いに高まりあうことができる時空の提供。

## サッパ船アドベンチャーズ



漁師の小船で行く洋上エコツアー

3,500円/一人、1時間

漁師とのふれあいながらの1時間クルーズ、巧みな操船技術、海辺の動植物ガイド、漁場の様子、断崖スケールを直下から仰ぎ見る際の迫力が人気のポイント。

## 北山崎ネイチャートレッキングガイド



昭和36年のフェーン大火から松林や住家を命がけで守った話。当時から今に至る自然再生を見続けたガイドの話に参加者は惹きつけられる。

3,000円/一人、1時間



打ち揚げられたコンブについて、参加者と語り合う。日本人の食卓に欠かせない素材に、参加者からも自身の地域のコンブ料理の紹介もされる。ここでは知識の教え込みは無用。

# 自然・環境を意識した取組み 「エコ・子どもプログラム」を毎年開催

キッズ・たのはた体感

岩手県・田野畑村・北山崎

## とことんエコ！ ツアー



10:00	田野畑駅集合
10:15	開会式
10:30	シーカヤック体験
～12:30	カニ釣り体験
12:30	昼食
～13:30	自分で釣ったカニをカニ汁にする
13:30	エコカーゴによる環境学習
～15:00	水質検査や海の生き物講座
15:15	閉会式
15:30	解散 →15:56 発上下線列車あり

【開催期日】平成20年8月5日(火)

10:00～15:30

車などに乗りなれている県内の子供達が、公共交通機関を使って田野畑駅に集合し、徒歩で移動。日中の行動も全て自分達の方で行う、動力を使わないエコにこだわったツアー。

湾内においてシーカヤック体験を通して海を楽しみ、カニ釣りをして海の生き物を知り、昼食に自分が釣ったカニを食べる。また、午後は水質調査や海の生き物に関する学習を行い、水辺の自然を活用し楽しむことと、それを保存していくエコ活動の必要性を、自然と感じられ、実践できる機会を提供する。



エコカーゴ



# 漁業と観光が連携した取組 「ワカメオーナー制度」 平成20年度から開始

岩手県 たのはた

# わかめオーナー

栄養豊かな三陸の海で「あなた自慢のオーナー」シャキシャキわかめ」を

「一緒に育てませんか?」  
温もりある漁師さんと

**作業工程**

10~11月:種巻き

2月:間引き

3~4月:収穫

## 「3.11」東日本大震災の津波被害

## 机浜番屋群

番屋群はすべて流失、漁港は破壊された。何百隻の漁船と共にサッパ船8隻中 6隻を失った



被災前

被災後

# 「3.11」東日本大震災の津波被害

# 漁村の町並みと生活



被災後

漁村集落と三陸鉄道の駅舎や橋梁は  
流失破壊され無残な姿に。

- 人的被害
  - ・死者 21人
  - ・行方不明者 17人
  - ・負傷者 6人
- 住家被害
  - ・274棟 被災者数701人
- 非住家(番屋等)被害
  - ・311棟
- 流失船舶 ・532隻
- 水産関係施設 ・201ヵ所
- 観光施設
  - 450人収容観光ホテル 被災休業中
  - 旅館民宿5軒流失



被災前

## 田野畑村観光の課題と解決への動き

### 通過型 観光の 課題

観光客入込みは80～100万人、しかし展望台から景観のみを楽しむという通過型の観光スタイルは  
村内消費の機会が少なく、経済効果が薄い  
景勝ポイントでしかバスを降りず、住民との交流がない  
真の自然の豊かさや奥深さ・真の村の姿が伝わらない

### 滞在型へシフトすべく体験型観光の導入

H14年度 観光振興計画「体験村・たのはた」推進プラン策定  
H15年度 組織化・プログラム企画とガイド募集  
H16年度 体験プログラム提供を開始

### 「番屋エコツーリズム」の誕生

### 滞在型 観光の 効果

体験型観光・エコツーリズムの展開  
地域の生業や文化に、住民との交流を通して触れる  
田野畑ファン・リピーターが拡大する  
滞在時間の延長  
プログラム利用による宿泊や滞在時間の延長により、直接消費や地産地消が拡大、一次産業等への相乗効果が生れる

## 「体験村・たのはた」組織と住民の参画

### 「体験村・たのはた推進協議会」 平成15年10月発足

村・商工会・農協・漁協・森組・ホテル等団体及び個人(計56の団体個人会員)

H19年 エコツーリズム大賞特別賞 受賞 (環境省)

### 「NPO法人 体験村・たのはたネットワーク」 平成20年1月発足

一般観光・ツアー観光・教育旅行などあらゆる旅行形態を対象に、地域手配のワンストップ、柔軟かつスピーディーなコーディネート、及び情報発信を展開。また、法人化により組織の任務と責任を明確にし、地域連携の核となることを内外に示し組織の意識改革と運営能力強化を進めている。

H20年 オーライ!ニッポン大賞 審査委員会長賞 受賞(農水省)

H22年 グリーンツーリズム大賞優秀賞(毎日新聞社主催 農水省後援)

\*\*\*\*\* 住民参加について (平成23年3月時点) \*\*\*\*\*

岩手グリーンツーリズム体験インストラクター登録人数31名

民泊ホームステイ受け入れ家庭 95軒 (1軒あたり5人の家族 95×5=475人)

食体験等のグループや婦人会等の団体数 10団体(10×各指導員10人=100人)

交流活動に参画する住人の合計606人 / 人口3,950人 = 15.3 % と高い参画率

## エコツーリズム推進のための主な取り組み

### 【組織の強化】

- ・ 組織改革→会社組織(NPO法人)、マネージメント、運営力強化
- ・ スタッフ能力の向上(企画力・営業力・運営力)
- ・ 住民インストラクターの参画 ガイド、民泊家庭を村全域から

### 【商品力強化】

- ・ プログラムの新規開発、多様化
- ・ ニーズ把握とマッチング(催行条件、料金見直し)
- ・ 個人、団体ツアー、教育旅行 誰もが楽しめるプログラム整備

### 【ガイドスキルの向上・環境意識の向上・安全性強化】

- ・ ガイド術の研修会、他地域の視察研修、プロ意識の植付け
- ・ ガイドは地元の自然環境を学習(研修会)、マナーの改善徹底
- ・ 安全衛生講習会の定期開催、安全マニュアルの策定
- ・ 保険整備(活動の全てと参加者をカバー)

## エコツーリズム推進のための主な取り組み

### 【マーケット分析・営業・情報発信】

- ・ マーケット分析(日本人の旅行形態、送客媒体、発地)
- ・ エージェントツアーの造成(相手商品に対する柔軟な企画持込)
- ・ パブリシティ、メディアの活用、webによる情報発信

### 【他地域や団体との連携】

- ・ 三陸地域へのノウハウ提供→サッパ船ツアーの三陸全域展開など
- ・ 三陸鉄道(地元0-加線)の利用促進と企画タイアップ
- ・ 全国ネイチャー団体、観光団体シンクタンクとのネットワーク化

### 【国や県との連携】

- ・ 環境省レンジャーとの情報共有、調査や保護活動の連携
- ・ 農水省との農山漁村活性化事業での連携
- ・ 岩手県との連携(観光課・自然保護課・農業振興課・水産振興課)

## 安全研修・講習会の様子



海上保安庁・消防署と連携した定期的な訓練。常に現場で実戦を想定。  
写真はサッパ船救難訓練  
(転落者引揚げ・洋上曳航・救難信号弾発射・心肺蘇生・救急連絡)



## ガイドスキル向上視察研修の様子



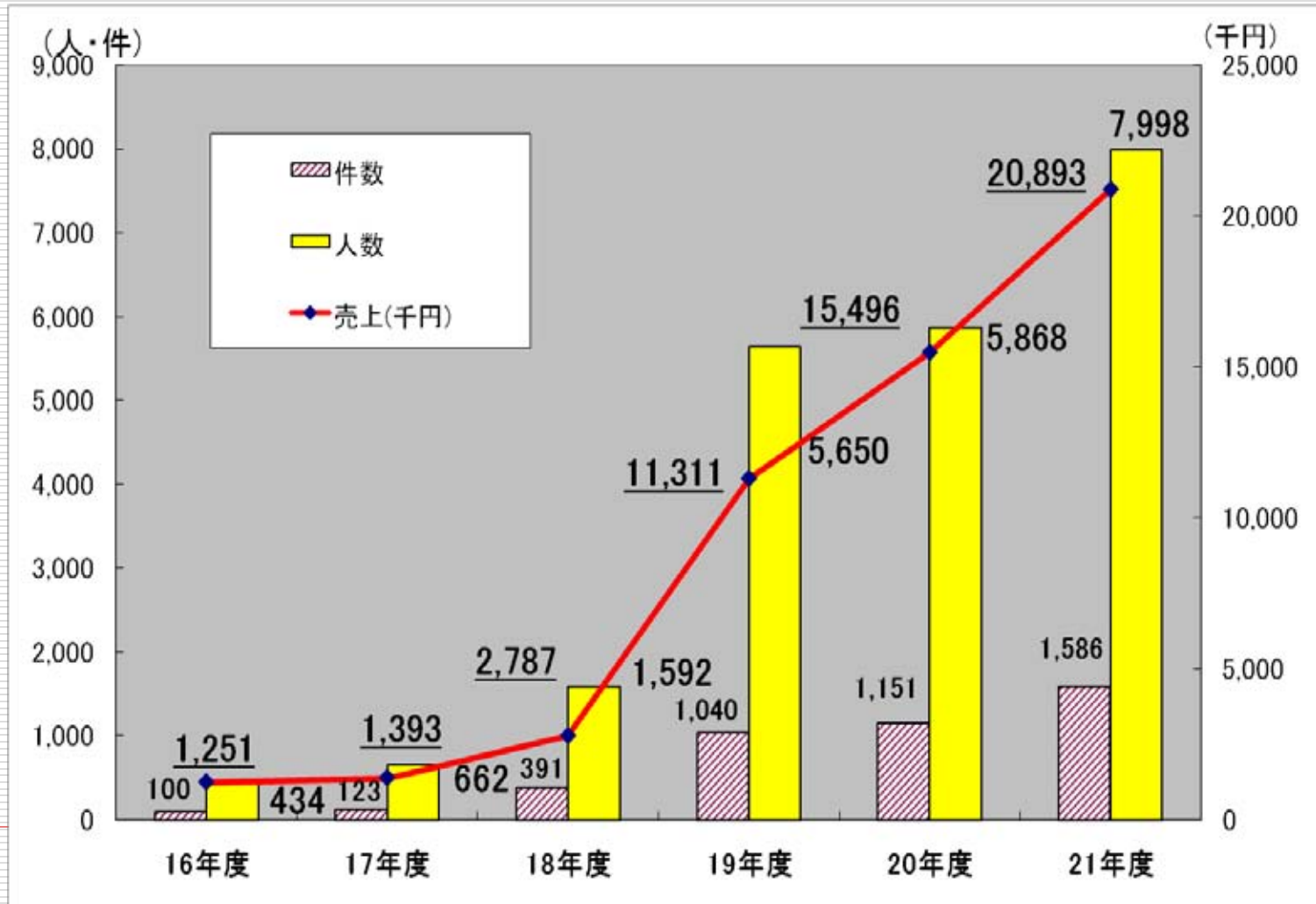
そば打ちプログラムの体験、紙すきプログラムの体験。  
各地の体験プログラムやツアーを実際に体験し、そのサービスや指導  
術を学ぶ。 毎年実施

## 地元の自然や環境を学ぶ取り組みの様子



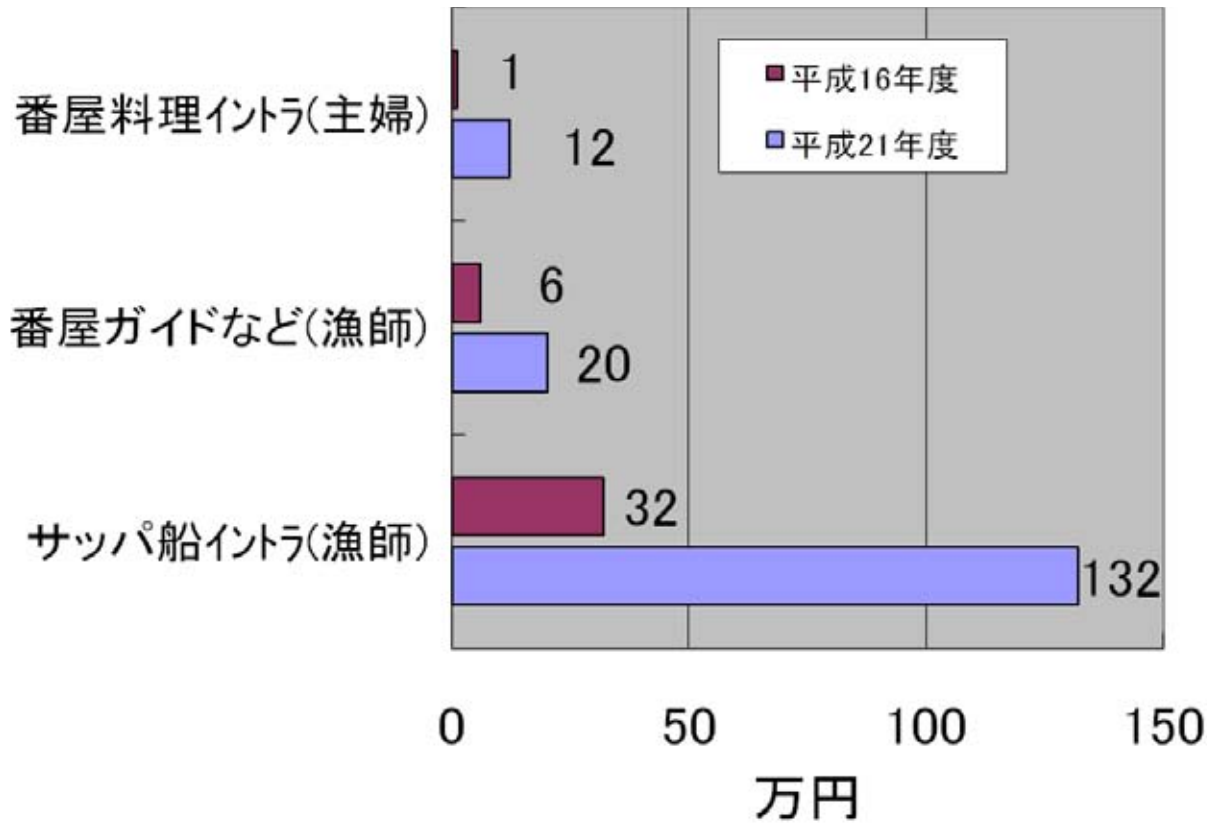
北山崎の野鳥とその生態について、「日本野鳥の会」から学び、ローインパクトのツアー実施やガイドネタに活かす。

# プログラムの実績と推移



# 住民インストラクターのガイド収入

主たる収入源(漁業など一次産業)を補う貴重な副収入源



## 復興への第一歩

## サッパ船の再開



津波により3階までが被災し営業休止中のホテル羅賀荘を背に、サッパ船の復興再開第一便が出港する。(平成23年7月29日)

失われたサッパ船6隻は、下北半島の漁協が被災後直ちに支援を申し出てきて早期の中古船の確保ができた。その漁協は、震災の2ヶ月前、番屋エコツーリズムを学びに視察に来た団体であった。当時から田野畑村はそのノウハウを惜しみなく全国の地域に提供していたが、まさにネットワークとその心から結ばれた“絆”の証しとなった。

## 復興への第一歩

## 新たなツーリズムの可能性



- 震災伝承や防災学習
- 津波の歴史とメカニズムを学ぶジオツーリズム
- 被災から復興へ向かうヒューマンドラマ

被災エリアにはまだまだ生まれ出されるツーリズムの可能性を秘めている。

写真は「震災体験ガイド(語り部)」プログラム(平成23年8月よりスタート)  
悲しい出来事と下を向き、口を閉ざしてばかりいられない。被災地として体験者として語り継ぐ責任もまたある。

# 番屋エコツーリズムを全国のサポーターと一緒に再生 机浜番屋群 構想図



# 三陸エコツーリズムの効果と期待 その 「自然・環境への芽生え」

震災後の取り組み

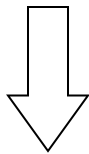


## 住民(インストラクター)

- ・ 環境の美しさに対する観光客の驚きや嬉しそうな表情に触れる

この海で育つ安全な産物を届けたい

- ・ 観光客から得る環境問題の重大性  
美しさの自慢、反面、自身への反省



自然保護・環境問題へ意識の芽生えや高まり

自然の豊かさ、美しさと  
その瞬間の感動を共感



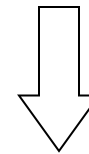
## 観光客(体験)

- ・ 日ごろの生活に追われ忘れていた、自身の心の優しさ引出される

この美しく豊かな自然や環境を自分の子孫へ見せたい残したい

- ・ またいつか、変わらぬ姿に会いたい  
(ここの自然形態営みが続いて欲しい)

自身の住環境において、環境のために出来ることは何か？





# 三陸エコツーリズムの効果と期待 その 「観光客と地域住民の高まり」



感動や発見を現場で共有し  
喜び合い、学びあう



## 住民(インストラクター)

- ・人や地元の役に立つという自負

自己の研鑽意欲が向上

- ・郷土への誇り、郷土愛
- ・生業(営み)の継続に希望

再び、生きがいを持つ

(心と体が健康に)



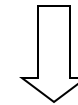
## 観光客(体験)

- ・自然や人とのふれあいによって心が癒される(心と体が健康に)

人として周りの社会や環境と向き合い、前向きに生きる

- ・現地で満たされる知的欲求(新たな欲求や関心の芽生え)

地方や社会問題への関心



人としての高まり・思いやりを持った生き方

## 環境省・新「三陸復興国立公園(仮称)」への期待

### ・早期のガレキ撤去と処分

今後も利用が見込まれないガレキ及びその仮置き場、毎日それを目にする被災地住民のトラウマや不安感の早期解消。

国道沿いや港湾に高く積まれ、観光的視点からも景観を大きく阻害。

### ・園地等復旧整備への支援

県及び市町村レベルでは財源確保が難しい、公園やキャンプ場、遊歩道等復旧整備事業への財政的支援。

### ・復興支援に関する自然公園法内の規制緩和措置

特例的な公園計画(規制計画・施設計画)のハードル下げ

### ・新「三陸復興国立公園」への期待

震災の体験と教訓の伝承や学びを目的とした場、日本人の心が「自然への恐怖心」から「自然への親しみ」に帰る場の直轄整備または事業支援。また、上記を目的とした被災エリアにおけるエコツーリズムなどソフト事業の更なる展開と支援。